



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
JR新宿ビル13F 〒151-8512
電話 03-3375-5740(代)

2018年12月21日

発行人 山口浩治 編集人 湯ノ目亜矢子

号外

月2回(1日、15日)発行/一部20円
(組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは

←こちらからアクセス

<http://www.jreu.or.jp/>

12月19日 第37回臨時大会 終了!



JR東労組の存亡を掛け、スローガン 向こう2年を展望し、未来を切り拓くために、 12地本が総団結し、全組合員と共に 組織の信頼回復と強化・拡大を実現しよう!

蕨市民会館ホールにおいて第37回臨時大会を開催しました。今臨時大会は、18春闘以降の脱退に伴う組合員の減少を踏まえ、財政・組織を再確立するために開催し、スローガンにも掲げた通りJR東労組の存亡をかけた臨時大会です。

JR総連・榎本執行委員長の来賓あいさつで「年の瀬のこの時期に臨時大会を開催しなければならぬ。これがJR東労組の現実だ」「JR東労組がこれまで築き上げてきた価値を失墜することないよう、JR総連に結集する仲間と共に奮闘すること」と現実を突き付けられました。改めてJR東労組の未来を仲間と共に作り出すことを自覚しなければなりません。

議事では動議が6つ提出され、採決を行い全て否決となりました。健全な組織運営と財政の確立を目指して議論し、スローガンをはじめとする組織・財政方針について採決の結果承認されました。今臨時大会を新たなスタートと位置づけ、JR東労組の存続のため、12地本総団結して「組織強化・拡大期間」に進進していきますよう!

- ◆ご来賓のみなさま(敬称略)◆
- | | |
|--------------|-------|
| JR総連 執行委員長 | 榎本 一夫 |
| 執行副委員長 | 田城 郁 |
| 書記長 | 柳 明則 |
| 組織・共闘部長 | 熊谷 茂 |
| 総務・国際部長 | 山田 知 |
| 財務・共済部長 | 照井 欣也 |
| JR東労組本部OB会会長 | 古川 建三 |

大会を成功させ、JR東労組の未来を切り拓いていこう

中央執行委員長あいさつ(要旨) 山口浩治

第37回臨時大会の意義について

第37回臨時大会にお集まりいただいた皆さん、大変お疲れさまです。今臨時大会は組織内外から非常に注目されています。大会の成功が、組合員の信頼回復と、組織強化・拡大に直結することは言うまでもありません。

すでに全地本委員長会議でも意思統一してきましたが、JR東労組は18春闘のたたかいかいを通じて約3万5千人の組合員を失ってしまいました。そして「2018秋のたたかいかい」では、組合員からの信頼回復、組織強化・拡大を大きな課題として取り組んできましたが、その道は険しく、なかなか思うように進んでいないのが現実だと思えます。

その一方で、組合員の減少は組織財政にも大きな打撃となっています。2018年度の当初予算が計画通りに執行できない状況になっており、収支バランスを維持することが大きな課題となっています。組合員が組合運動を実践していく中で、組織の強化は勝ち取れません。しかし財政には限りがあるので、どのような運動に集中するのかなど、組織現実に照らし合わせて議論をしていかねばなりません。

中央執行委員会も運動と財政の関係をギリギリまで議論してきました。組織拡大の進捗状況と、職場で発生している諸問題とのたたかいかいから、皆さんへの提起がこの時期になってしまったことをご理解いただきたいと思えます。

一昨日、水戸、東京、八王子地本の連名で「要請書」が中央本部にFAXで送られてきました。第37回臨時大会の中止を求めるといふものです。中央執行委員会として中止をする理由がないので、予定通り開催していますが、臨時大会は、その名の通り、まさしく臨時に開催することが必要なので招集しています。今臨時大会も全地本委員長会議での議論を経て大会を開催しているものであり、中止要請というのはJR東労組の組織現実と、待たなしの財政状況への対応を遅らせてしまつたのです。したがって、改めて今臨時大会の開催の意義をご理解いただき、真摯な議論を重ねてお願いするものです。

職場の声と組織の現実について

現在、職場からは「早く12地本がまとまってほしい」「会社と健全な労使関係をつくってほしい」「明るい職場をつくってほしい」という組合員の声が出されています。会社による不当労働行為や、様々なハラスメントをなくしてほしいという切実な声に、私たちはどのように向き合っていくかが問われています。

「18春闘と不当労働行為は別物だ」という意見がありますが、中央本部の見解は異なります。私たちは、これまで大会議論を経て18春闘の総括を行ってきました。第36回定期大会では特徴的な発言として、長野地本の代議員から「不当労働行為を呼び込んだのは組合の責任ではないか」、新潟の代議員から「18春闘で組織も絆もなくしてしまつた」、他にも組合員の組織に対する信頼を失墜させてしまったという発言がありました。私は総括答弁で「大敗北」の原因については「多くの組合員が、18春闘の闘争方針をめぐり脱退の理由になっている」という現実、不当労働行為もあると思えますが、会社に対するスト戦術と組合に対する期待感の狭間に組合員を追いやってしまったことを、そして組合に裏切られたと感じる組合員を生み出してしまったこと」が今の組織現実を招いてしまつた原因であると答弁しました。現実を生み出しているのは、私たちの実践の結果です。ですから、相手がなぜそうなっているのか実践の過程を振り返っていくことが必要です。

前吉川委員長は、組合員にも「スト権は確する他の単組の仲間にも、会社にも「スト権は確立しない」「ストはやらない」と言い、中央本部に対しては「絶対にはたかひ」と言い続けました。この認識のずれ、混乱がJR東労組に対する信頼を失墜させてしまったことは明らかです。その反動が不当労働行為を呼び込んでしまったというのが中央本部の見解です。

JR東労組運動を妨害する者は断固たたかう

私たちは12地本が一体となって前進することを目指していますが、そのたたかいかいを否定する組織破壊行為が後を絶ちません。これまでも「JR東労組を憂う会」「JR東労組の現状を糾す、国鉄改革の精神を忘れないためのJR東労組OBの連絡会準備会」「JR東労組組合」などを組織破壊と決定してきました。さらに、中央本部と12地本が見解を齟齬しましたが、「JR東労組現実の声」も中央執行委員会で組織破壊と決定しました。「真実の声」は誰もが見ることのできる中、事実と異なる投稿や、中には名誉棄損に値する投稿など、JR東労組破壊を目的とする輩を利用するものとなっています。さらに深刻なのは、実名投稿している者がいることです。自分の立場を理解しているのか分りませんが、許すわけにはいきません。中央本部見解では、投稿者ならびに情報提供者については制裁に値すると明らかにしています。

また一部のOBにより、JR総連やJR東労組の執行部を担う者たちに対して「会社から金をもらっている」などと非常に低レベルな事実無根のデマ情報を流布し、批判をしていることも明らかになりました。かつて組織の中枢を担ったことのある方の発言とは思えません。

私たちは、嘘、偽りでその足を引っ張る「妨害者」とは、JR総連の仲間とも連携し、全組織をあげてたたかひ抜いていくことをします。

今臨時大会は、そのような不団結要素を抱えた中で行われます。今後も組織強化・拡大を行い、その力をもって会社施策にも向き合っていくかなければなりません。18春闘の「大敗北」という痛切な現実に対して、これまでの大会議論を通じて課題を明確にして、乗り越えるためのたたかいかいを練り上げてきたように、第37回臨時大会でも組織、財政の基盤整備のために提起する内容を、代議員の真摯な議論によって組織の総意へと高めていただきたいと思います。